

落葉性の蔓性の木で、秋に出来る果実はアケビと共に親しまれています。アケビは小葉が5枚ですが、このあたりでよく見られるのは3枚の小葉のミツバアケビです。名の由来は、大きく口を開けた果実の形から「開け実」が変化したという説などがあります。果実は薄紫色で熟すと裂けて、中には半透明で水分を含んだゼリーのような果肉と黒い種が入っています。種は苦いですが、果肉は甘くて美味しいです。果肉以外に果皮も炒めたり煮たりしてほろ苦さを楽しめます。

また、つるを干したものは「木通（あけび・きつう）」と呼ばれ、煎じて利尿や鎮痛の生薬として利用されています。つるはカゴを編んだり、アケビ細工を作ったり、薪などの結束に昔から利用されてきました。柔らかい新芽も山菜として食されており、すべての部位が活用できる農山村の生活を支える重要な植物でした。

花は雌雄異花で気品のある紅紫色、受粉した雌花がだんだんと成長していく様子を観察するのは散策の楽しみのひとつです。今年は花の当たり年のように、たくさんの花をつけています。園内各所で見られます。



小葉は3枚 5/9 冬芽 3/14



芽吹き 4/24



花 (大きいのが雌花・小が雄花) 5/13



果実の赤ちゃん 6/16



若い果実 8/17



熟した果実 10/10